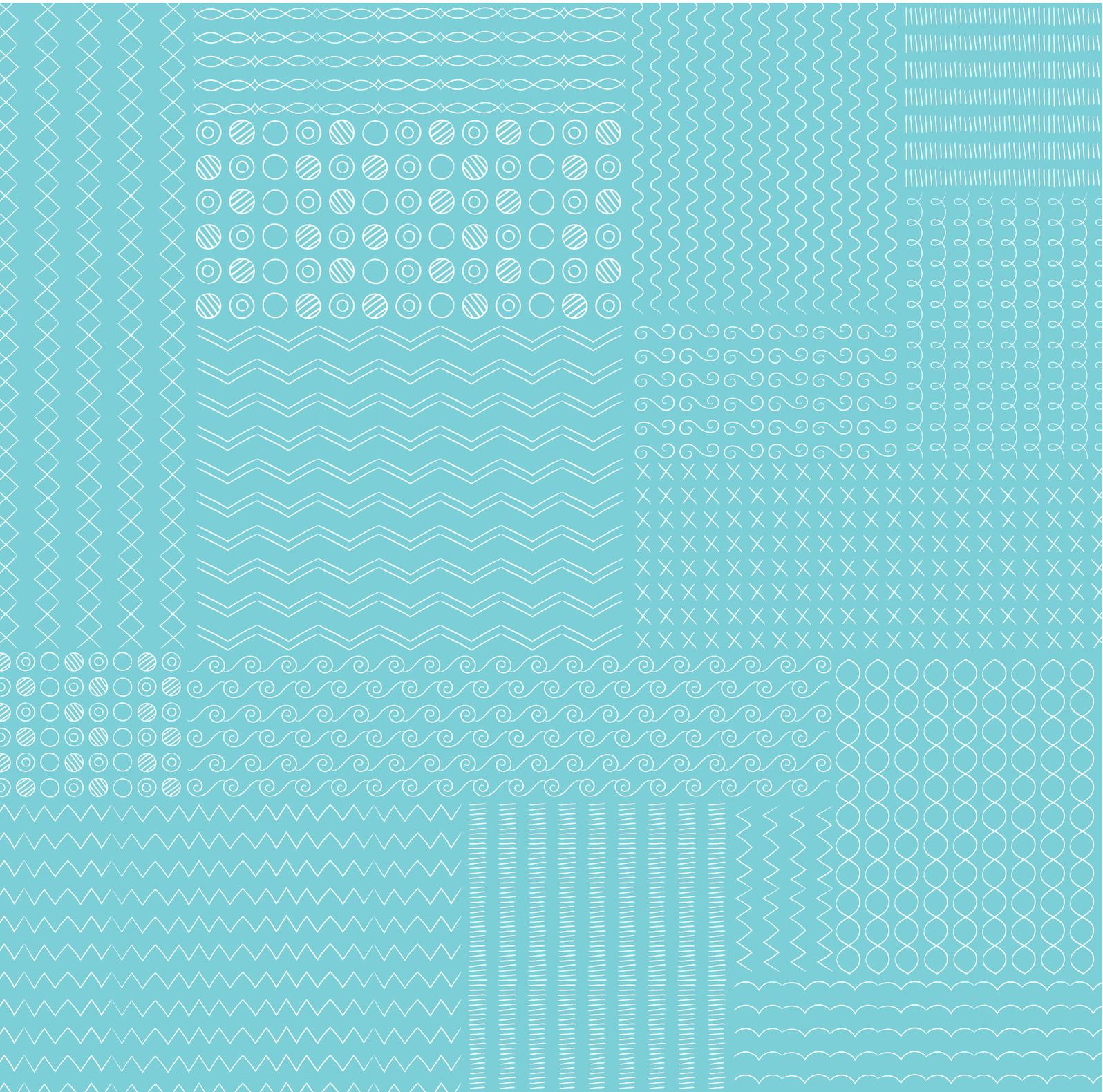




学校法人 藤田学園
FUJITA ACADEMY

2023年度 事業計画書



2023年度

事業計画書

目次

事業計画の骨子	1
事業計画概要	
教育・研究	
1.大学としての取り組み	2
2.医学部	3
3.大学院-医学研究科	4
4.医療科学部	5
5.大学院-保健学研究科 (臨床検査学、医用放射線科学、臨床工学、医療経営情報学領域)	9
6.保健衛生学部	11
7.大学院-保健学研究科 (看護学、リハビリテーション学領域)	13
8.研究推進本部	14
医療・福祉	
1.藤田医科大学病院（第1教育病院）	17
2.藤田医科大学 ばんだね病院（第2教育病院）	19
3.藤田医科大学 七栗記念病院（第3教育病院）	21
4.藤田医科大学 岡崎医療センター（第4教育病院）	23
5.地域包括ケア中核センター	25
6.藤田医科大学東京 先端医療研究センター	26
経営	29
2023年度 学校法人藤田学園予算	31

発行時期
2023年6月

事業計画の骨子

学校法人藤田学園は、2022 年度に「社会貢献」を新たな柱として加え発表した「Fujita VISION 2030」に基づく中期計画に沿って 2023 年度の事業計画を策定した。

「社会貢献」の中心となる取り組みである「災害時医療」では、2022 年 9 月から始まった愛知県や日本の大手企業との協議を進め、災害時に医療を継続するための太陽光発電、水素発電、蓄電池設備等を組み合わせたエネルギーシステム構築を図る。同時に太陽光発電の設置工事がスタートし、その一歩を踏み出す。さらに、ドクターヘリの運航が年度内に始まり、より広域的な医療支援が可能となる。また、企業と連携した医療品備蓄倉庫計画、水素ステーションの設置など全方位で進め、基幹災害拠点病院の全国的モデルとなることを目指す。

医療 DX も大学の重点的な取り組みのひとつとなる。世界標準での医療データ共有の仕組みを使った医療情報の 2 次利用プラットフォームを、臨床、治験、研究で活用できるよう、企業と連携して進める。また、遠隔手術の実現に向け、海外との実証実験を行う。スマートホスピタルでは、企業と連携し搬送ロボットをサービスイン。さらに、人工知能を用いた新たながん診断システムの確立や業務システム、医療データのスマート化を進める。

教育では、医学部は JACME(日本医学教育評価機構)を再受審し高得点での認証を目指す。医療科学部では、生涯にわたる長期的な視点に立ったキャリアプログラムの実施のため、組織改編を行う。保健衛生学部では、リハビリテーション学科の教育課程変更を計画。課題であった理学療法士と作業療法士の一体教育に向け取り組む。また、大学院では、医学研究科は、病院経営学を学ぶ専門職大学院が 4 月から開講し、保健学研究科は、学部構成にあわせた大学院とするため、医療科学研究科の設置準備に取り組む。

研究では、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業の実施、橋渡し研究支援機関の認定を目指し、社会実装に向けた研究を推進する。また、JST 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)の採択に向けて取り組む。

医療では、第 1 教育病院は、開院 50 周年を迎える。本年度は、セラノスティクスセンターを稼働させ、がん検診・治療の環境を強化する。第 2 教育病院では、新 A 棟の竣工による手術室の増室に加え、血液浄化センターを新設する。

さらに、藤田学園の新たな医療施設として 10 月に東京の羽田空港敷地内に藤田医科大学東京 先端医療研究センターを開業する。センターでは日本の玄関口、羽田で日本の最先端医療の拠点を創り、世界に発信することを目的に、再生医療、遺伝子診断、最新の国産医療機器による精密診断、科学的な生活指導(活動長寿プログラム)などの事業を展開する。

また、教職員の働き方・人事制度改革では、等級制度、評価制度の改正に取り組むと同時に、教職員のエンゲージメントを高めるための取り組みを実施する。

藤田学園は、全教職員 All Fujita で医療を通じた社会貢献を行っていく。

学校法人藤田学園 理事長



事業計画概要

教育・研究

1 大学としての取り組み

<大学全体の取り組み>

- ・プロフェッショナルリズム人材、人をリスペクトする人材を育成する。
(全学的なあいさつ運動の展開など)
- ・Fujita VISION 2030を実現するための行動計画を策定する。
- ・持続可能な開発目標 (SDGs) を明示的に設定し、社会貢献を大きな柱に据える。
- ・大学設置基準の一部改正に対応するため学則変更を検討する。
- ・大学院保健学研究科を保健学研究科と医療科学研究科に改変する準備を進める。

<研究に関する取り組み>

- ・橋渡し研究支援機関の認定取得に向けた取り組み、基礎研究と臨床研究の連携を強化する。
- ・COI-NEXTへの再申請を検討する。
- ・地域中核・特色ある研究大学の振興（施設整備事業と強化促進費）の選定に向けた取り組みを進める。
- ・積極的な外部資金と補助金の獲得、および産官学での共同研究を推進する。
- ・ヘルスデータアーキテクチャーセンターの活動を推進する。

<国際交流に関する取り組み>

- ・全学部学科で海外協定校とのオンラインプログラムを実施する。
- ・海外からの学生の派遣・受け入れ再開に向けて協定校と協議を進める。

<地域貢献に関する取り組み>

- ・自治体と連携した健康づくりの拠点をさらに増やし、地域住民との交流の場や教育プログラムを提供する。
- ・地域を支える人材育成プラットフォーム事業を強化し、参画大学と共に地域の課題解決を進める。
- ・学生・教職員が防災士講習を受講し、有事の際に自治体等と連携することで地域に貢献する。

2 医学部

【教育】

I. 学生の資質・能力の向上

- ① 参加型臨床実習の充実
 - 臨床実習においてカルテルーブリックの運用や経験症例の管理を通じた、参加型臨床実習のさらなる促進による学生の実践的な臨床能力の向上
- ② リサーチマインドの醸成
 - 探究心に満ちた医師・研究者を育成するため SRP を継続し、関西医科系大学研究医養成コンソーシアムや藤田 EXPO への学生参加を推進
 - 学生への補助に関する PR による研究発表をおこなう学生の増加
- ③ 国際化に対応する学生サポートの推進
 - 海外での「選択制臨床実習」や、「医学研究演習」におけるシラパコン大学への学生派遣による海外大学との交流を活性化、および渡航前の英語プログラム強化による学生の英語による臨床技能修得能力の向上

II. 教職員の資質・能力の向上

- ① 医学部使命の周知
 - 本学の基本姿勢を踏まえた教育研究活動の実践
- ② カリキュラム全体の理解
 - 学部教育の恒常的改善を前提とした、学修成果の把握とカリキュラムの総合的な理解
- ③ 学生指導スキルの向上
 - 学生の気質を理解し、学生を指導する力の強化
- ④ 試験問題作成能力の向上
 - 質の高い卒業試験問題作成と、そのブラッシュアップをする力の強化
- ⑤ 教育業績の可視化と省察
 - ティーチングポートフォリオチャート作成、教育業績の可視化など、教員が自ら教育活動を省察する力の強化
- ⑥ 情報教育ツールを利用した学修支援
 - MATLAB を用いた、教員のデータ解析能力の強化

III. カリキュラムの質の向上

- ① モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)への対応
 - 医学部卒業コンピテンス・コンピテンシーを改訂、現行カリキュラムの見直しと改訂

IV. 教育環境の整備

- ① 学修動画共有プラットフォームの更新
 - 学生による授業評価、視聴履歴の管理など、IR の側面にも対応可能な講義収録システムへの更新

- ② 共用試験公的化への対応
 - 共用試験公的化による OSCE 課題数増加に対応するための、文部科学省予算を活用した胸部診察シミュレータ、および評価用電子デバイスの複数台新規購入

【その他】

- ① JACME(2 巡目)認証獲得
 - 世界標準の組織、設備、運用を備えた教育システムの確立とそのノウハウの記録、および次世代への継承
- ② 医学部使命の見直し
 - 昨年度 WS を行った医学部使命の見直しに関するさらなる議論、および3ポリシー、卒業コンピテンス・コンピテンシー改定の完了
- ③ 本学卒業生子弟枠入試の新設
 - 本学医学部の使命を理解し、本学を学びの場として選び、社会に貢献しようとする志を継承する者を迎えるための入学試験を実施

3 大学院-医学研究科

【教育】

I. 学生の資質・能力の向上

- ① 大学院生の確保
 - 質の高い研究活動を継続的に行う大学院生の確保を目的とする方策の推進
 - ・臨床研修センターと連携した、大学院進学説明会開催のための企画・検討
 - ・修士課程修了者に対する、博士課程への進学を推奨
 - ・各研究室のホームページに掲載する情報の充実化
 - ・外国人留学生の受け入れを推進するため、英語版ホームページの情報を充実化

II. 教職員の資質・能力の向上

- ① 指導体制の整備
 - 学位論文研究の早期指導体制確立による、学位取得率および学位論文の質向上
 - 英文国際誌掲載原著論文を学位論文の原則とすることによる、学術水準の高い学位論文の執筆指導促進

III. カリキュラムの質の向上

- ① 大学院教育の刷新
 - 博士課程のカリキュラムに医学セミナーを充実

- 藤田 EXPO(10月)における大学院生による研究発表会の場の設定
- ② 学位授与要件の見直し
 - 学修成果の把握と評価の適切な実施
 - 早期学位授与要件について見直し

【経営】

- ① 専門職学位課程の運営体制確立
 - オンラインと対面を併用する授業の開始に伴う、通信環境、スクリーニング対応、テキスト共有、課題提出など、院生に対するサポート体制の整備

4 医療科学部

【教育】

I.アウトカム基盤型教育の改善活動の定着

- ① 2022年度アウトカム基盤型教育のアセスメント
 - アセスメントの項目と方法についての検討
 - ・項目の抽出
 - ・項目毎にデータ収集
 - ・IR委員会へ解析依頼、解析結果報告の取得
 - アセスメントの実施
 - ・収集データ、解析結果報告から教育について考察し、報告書作成
 - 改善案の策定
- ② 教員教育の実施
 - アセスメント結果の報告と課題改善のためのFD開催
 - 各分野に改善計画作成を依頼、次年度シラバスへの反映

II.キャリア教育の理解と実践

- ① 英語教育方針に基づく英語教育の実施
 - 2022年度英語教育のアセスメント
 - ・アセスメント方法の検討
 - ・アセスメント項目の抽出とデータ収集
 - ・IR委員会へ解析依頼
 - ・解析結果報告から教育について考察し、報告書作成
 - ・改善案の策定

- ② リカレント教育の理解と計画
 - リカレント・リスキリングのニーズ調査の計画と実施
 - 本学部におけるリカレント・リスキリング教育プログラムの検討、企画
- ③ 教員教育の実施
 - 英語教育のアセスメント結果の報告と課題改善のための FD 開催
 - 各科目における英語教育実施に関する FD の開催
 - 英語教育について各分野に改善計画作成の依頼、次年度シラバスへの反映
 - リカレント・リスキリングの理解のための FD 開催
- ④ キャリア教育方針によるキャリア教育の実践
 - キャリア教育を支援するシステム作り
 - ・ビジョンおよびミッションの検討(短期、中期)
 - ・学びの成長を見える化するツールの検討

【研究】

I.学内外の研究拠点との共同研究の推進

- ① 研究推進ユニットが学内の研究機関との共同研究を主導・推進
 - 研究拠点と医療科学部の共同研究の推進
 - ・分野間の共同研究体制の整備の検討、実施
 - ・国内外の研究教育機関との共同研究の計画と開始
 - ・医療科学部教員による研究交流セミナーの隔月実施
 - ・海外研究者(科学的に著名な方や若手 PD など)の講演会開催

II.ヘルスケア研究

- ① シーズあるいはニーズを有する各分野との共同研究の推進
 - ヘルスケア研究の実施
 - ・深層学習による眼底写真の解析手法の検討・試行
 - ・健常者および患者データベースの機械学習を用いた解析手法の検討・試行
- ② 生活習慣病等の病態解明を先進的な予防・診断・治療につなぐ研究の推進
 - ヘルスサイエンス研究課題の検討
 - ・分野がもつ研究設備・人材等の特徴を活かした推進すべき研究課題の検討およびそれに必要な研究体制の計画

【医療・福祉】

I.大学病院との連携推進

- ① 臨床業務・教育・研究における相互連携への取り組み推進
 - 中央診療部門のマネジメント・業務の支援継続
 - ・臨床教育連携ユニットが連携する大学病院中央診療部門のマネジメントおよび業

務支援の継続

- 中央診療部門と学部との教育・研究の相互支援の推進
 - ・臨床教育連携ユニットの学部内講義・実習に対する中央診療部門による支援の検討および企画
 - ・中央診療部門の教育・研究に対する臨床教育連携ユニットによる支援継続
 - ・臨床教育連携ユニットと中央診療部門との研究協力体制構築の検討および企画

【経営】

I. 教員組織改革の実践と改善

- ① 教学マネジメントにおける教員の組織的活動の改善
 - 2022年度の組織的活動の課題抽出と改善活動の実施
 - ・学部の発展に寄与できる分野の新設、再編の検討およびグローバルに活躍する人材の採用
 - ・自己点検評価報告に基づく改善計画の策定と実施
 - ・階層別マネジメントに合った組織見直しの検討
 - ・ユニット、分野の役割と責任の明確化、組織的に教員が活動するための企画、実施
 - ・委員会・会議体等の会議進行の課題抽出と改善活動の実施
 - ・アドミッションセンターとの協働による入試等の広報活動の企画・実施
 - 教員教育の実施
 - ・2022年度の委員会等の活動報告と課題改善のためのFD開催
 - ・組織的活動の情報共有と実践のためのFD開催
 - ・階層別に組織運営等のマネジメント教育の企画、実施
- ② 教員の業務改善
 - 教員の働き方についての検討
 - ・TAの役割見直しと教員の教育業務の効率的実施の検討、企画・試行
 - ・教員の業務分掌の検討、企画・試行
 - ・教員がやりがいを実感できる働き方の検討、企画・試行
 - 教員の評価についての検討
 - ・学部主導の教育改善と教育の実践に対する評価の検討、企画・試行
 - ・教員の管理運営、研究、臨床支援に対する評価の改善の検討、企画・試行
 - 教員教育の実施
 - ・教員の働き方および評価の理解のためのFD開催

II. 外部資金獲得のための活動実践

- ① 教育研究活動における外部資金獲得のための活動の検討
 - 教育改善計画案の策定

- ・学部の教育改善計画の検討
- ・改善計画に沿って必要となる設備、システム等の予算計画作成
- 研究改善計画案の策定
 - ・学部の研究改善計画の検討
 - ・改善計画に沿って必要となる設備、システム等の予算計画作成

III. 学園が示す人材育成活動の組織化

- ① キャリア教育センター(仮称)構想に係る医療科学部における活動の試行
 - 組織化計画の検討
 - ・ミッション、ビジョンの検討、公表
 - ・関係部署連携体制の検討、企画
 - ・活動拠点設置および人員、経費等の試算と年次計画作成
 - 教育活動の検討
 - ・学生を対象としたキャリア教育活動の検討、企画
 - ・教職員を対象としたキャリア教育活動の検討、企画

【社会貢献】

I. 大学が実施する組織横断的プロジェクトへの参画

- ① 危機管理、デジタル、グリーン関連プロジェクトにおける貢献
 - 危機管理、デジタル、グリーン関連プロジェクトへの参画
 - ・防災土育成関連プロジェクトへの教職員の参加促進
 - ・スマートホスピタル関連プロジェクトへの教職員の参加促進
 - ・産官学連携によるエネルギー関連プロジェクトへの参加促進

II. 学術団体および職能団体の活動への参画

- ① 医療機関との臨床・教育・研究における相互連携の取り組み
 - 各医療職種職能団体の活動企画への参画
 - ・臨床検査関連分野、臨床工学関連分野、および放射線関連分野から、それぞれの関連する職能団体による活動企画への参加の検討と実施

5 大学院-保健学研究科

(臨床検査学、医用放射線科学、臨床工学、医療経営情報学領域)

【教育】

I. グローバル化

① 外国人留学生受け入れ、交換留学、シーズンスクール等のグローバル化の推進

➤ グローバル化の推進

- ・外国人留学生の受け入れ促進を目的とした入試・授業形態の改善検討・実施
- ・Exchange program の海外拠点を整備し、大学院生の交換交流の検討・企画
- ・海外の大学とのシーズンスクールを企画・実施

II. 教育の質の担保

① 遠隔授業、英語による授業や研究指導の質を担保するための授業法教育と改善活動の実施

➤ 英語授業・遠隔授業の改善・実施

- ・英語による講義の実施および問題点の収集
- ・英語による講義実施のための資料を作成し、FD を企画・開催
- ・遠隔授業に関するノウハウを活かした講義・実習の実施
- ・科目履修、研究指導に関する問題点の改善

【研究】

I. 研究・臨床部門と連携した教育研究体制の確立

① 学内外の研究・臨床部門で活躍できる人材を育成するための教育研究体制と就職支援体制の整備

➤ 研究・臨床部門と連携した教育研究体制の運用

- ・大学院生の学修環境の改善検討、企画
- ・大学院生が関わる学内外の研究あるいは臨床部門との共同研究の企画、実施
- ・大学院生に対する関連部門への就職支援
- ・大学院生を対象としたキャリア教育活動の検討、企画

【医療・福祉】

I. 大学病院との連携推進

① 臨床業務・教育・研究における相互連携への取り組み推進

➤ 中央診療部門のマネジメント・業務の支援継続

- ・連携する中央診療部門のマネジメントおよび業務支援継続

➤ 中央診療部門と大学院との教育・研究の相互支援の推進

- ・講義・実習に対する中央診療部門による支援の検討および企画
- ・中央診療部門の教育・研究に対する支援継続

- ・中央診療部門との研究協力体制構築の検討および企画

【経営】

I. 教員組織改革の実践と改善

- ① 教学マネジメントにおける教員の組織的活動の改善
 - 2022 年度の組織的活動の課題抽出と改善活動の実施
 - ・自己点検評価報告に基づく改善計画の策定と実施
 - ・2024 年度からの医療科学研究科の組織の検討
 - ・アドミッションセンターとの協働による入試等の広報活動の企画・実施
 - 教員教育の実施
 - ・2022 年度の委員会等の活動報告と課題改善のための FD 開催
- ② 教員の業務改善
 - 教員の働き方についての検討
 - ・TA の役割見直しと教員の教育業務の効率的実施の検討、企画・試行
 - ・教員の業務分掌の検討、企画・試行
 - ・教員がやりがいを実感できる働き方の検討、企画・試行
 - 教員の評価についての検討
 - ・主導的教育改善と教育の実践に対する評価の検討、企画・試行
 - ・教員の管理運営、研究、臨床支援に対する評価の改善の検討、企画・試行
 - 教員教育の実施
 - ・教員の働き方および評価の理解のための FD 開催

II. 外部資金獲得のための活動実践

- ① 教育研究活動における外部資金獲得のための活動の検討
 - 教育改善計画案の策定
 - ・教育改善計画の検討
 - ・改善計画に沿って必要となる設備、システム等の予算計画作成
 - 研究改善計画案の策定
 - ・研究改善計画の検討
 - ・改善計画に沿って必要となる設備、システム等の予算計画作成

【社会貢献】

I. 研究・臨床部門と連携した教育研究成果の社会への還元

- ① 研究・臨床部門活動の社会への還元
 - 研究・臨床部門と連携した教育研究成果の社会への還元
 - ・学部と連携した市民公開講座の企画・立案・予算化

6 保健衛生学部

【教育】

I. 独創的かつ先進的な医療人育成に向けた新カリキュラム構築

独創的かつ先進的で全人的な医療人育成の教育課程を構築する。

- 新カリキュラムを2024年度から運営するための移行準備
 - ・新カリキュラム案の継続検討、改善点の明確化
- 学生の資質・能力の向上
 - ・挨拶と接遇の啓発活動の開催
 - ・関連法令等の諸条件の教育課程への反映
 - ・養成課程の課題整理、試験的な一部実施
 - ・情報科学教育に関する学部全体での課題解決検討と一部実施
 - ・一部学生を対象にした、学部内連携体験の実施

II. 地域包括ケア等を題材としたPBL実施、思考力連携の強化

本学の強みを最大活用し、社会問題解決への思考力と連携力を培う。

- 複数課題のPBLを実施し、問題解決の経験値を増やす。
 - ・参画学生の拡大
 - ・帯同学生の適宜増加による、多様な課題の体感
 - ・他学科教員の現場見学による、専門性と協働点の学修
 - ・検討課題数の増加による、柔軟な発想力の養成

III. 学生の国際通用性の強化、グローバルな新医療人の創出

学生の国際通用性を高め、グローバルな新医療人創出を推進する。

- 英語活用機会を増やし、留学生の募集体制も強化する。
 - ・国家試験対策等の留学生支援企画の具体化と、複数回の実施
 - ・国際的な活躍者との交流会の実施
 - ・国際交流企画の具体化、一部先行しての実施
 - ・ウェブ等の英語化検討、一部実施
 - ・外国語を母語とする人とのコミュニケーション力の強化

【研究】

I. 学部内連携研究の推進

専門知融合によって、次世代の知を創生する連携研究を実現する。

- 取り組む研究課題を拡張し、同時に組織改善をおこなう。
 - ・臨地に立脚した研究課題の高質化と広範化の実現
 - ・臨地実践家と基礎研究者による研究の推進
 - ・研究課題毎の進捗報告の実施

- ・継続的な競争的資金の応募・獲得

II.地域包括ケア等に関する保健衛生学研究の推進

保健衛生学研究に学生が参画し、次世代の人材育成につなげる。

- 参画学生数と活動回数を増やし、生活多様性を学修する。
 - ・活動回数の増加による、生活の多様性の学修
 - ・参画学生増加による、研究内容の拡張
 - ・調査結果の報告会の実施
 - ・メディアや SNS 等を利用した成果の公開

【医療・福祉】

I. " Fujita " の更なる臨地実践力の強化と国際発信の推進

国内外に積極的に発信し、国際的な " Fujita " のブランド力を高める。

- 各種取り組みに関する発信を、定期的実施する。
 - ・メディアや SNS 等での実績の公開
 - ・研修会の講師等、先端技術の現場実装の支援
 - ・国際学術誌等への発表による実践活動の発信

II. JST COI-NEXT 等、先進技術の社会への実装の推進

看護学、理学療法学、作業療法学への先進技術の活用に尽力する。

- 学部内において適した組織を編成し、各課題に取り組む。
 - ・各課題に適した組織の構築
 - ・交流企画の実施、豊かな協働関係の構築
 - ・既存の先進技術を用いた課題解決支援の実行
 - ・窓口の周知、相談事例等の公開

【経営】

I.学部全体として、また各学科としての管理運営体制の強化

- 各教員の業務の指示系統の継続的な整理、改善を進める。
 - ・分野毎の指示系統の確認と業務可視化の促進
 - ・分野長の業務把握状況の確認
 - ・高大接続の推進、公開講義等の積極的な実施
 - ・委員長など責任者への新たな教員任命、管理運営経験の増加

【社会貢献】

I.学部全体として、また各学科としての災害対応力の強化

自然災害等の発生時に、即時に十分な活躍ができる人材を育成する。

- 防災関連資格の取得者を増やして学部内研修を高める。

- ・防災訓練を実施、マニュアル等の資料の改善
- ・防災教育の教材選定と課題の整理
- ・防災に関する専門家を招いての研修会の実施
- ・資格取得者の増加による、有事等での対応力の強化

7 大学院-保健学研究科(看護学、リハビリテーション学領域)

【教育】

- 修士・博士後期課程での英語講義・演習等の充実や、海外学生との意見交換による英語力や発表力の向上
- 教育力向上のための実質的な Faculty Development の企画、開催
- 遠隔授業に関するこれまでの経験や工夫に関する情報共有による遠隔授業の質向上
- 演習・特別研究以外の科目の一部を遠隔授業に移行し空間的制約を排除することによる学修時間の増加
- 留学生の科目履修・研究指導の進捗を共有し、個々の問題点の早期発見、指導強化
- 厚生労働省「理学療法士作業療法士専任教員養成講習の開催指針」に則った内容での科目開講についてのカリキュラム確認および改善の検討
- 分野を超えた研究活動における交流の促進
- 学部生との交流機会の設置

【研究】

- 学部内の分野間や学内他部門との共同研究推進による研究力の向上
- MOU 締結校・関連研究施設等との交流による国際化・研究の高度化を推進
- 複数回の国内外研究者の講演会やシンポジウムを企画・開催することによる研究力の向上
- 女性研究者、若手研究者等を対象としたセミナーの開催による科研費等外部競争的資金の獲得を推進

【医療・福祉】

- 臨床現場で勤務する専門職を積極的に受け入れることによる研究力の向上と臨床への還元を推進
- 得られた最先端の基礎・臨地研究の知見について、臨地での実践および社会実装の推進

【経営】

- ハイブリッドでの入学説明会、学術団体・協会での大学院説明会、ウェブページの内容拡充等の幅広い広報活動による国内外からの研究心旺盛な多くの学生を獲得
- 英語による事務手続きのシステム化の確認と改善
- 2024 年度からの新体制での運営に向けた準備

【社会貢献】

- 国内外の企業、行政との連携による、有機的な産学、産官学連携の研究開発の実現
- 先進的・独創的な取り組みや成果のメディア等への発信

【その他】

- 本学の建学の精神をもとに、今後本研究科が育成する人物像、そのためのカリキュラムや組織についての検討
- 研究の基礎を学修する科目の新設、学位ごとのディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを検討

8 研究推進本部

I. 橋渡し研究支援機関の認定、社会実装に向けた橋渡し研究の推進

- ① 学内シーズ発掘戦略の構築
 - 研究申請書レビューによるシーズの棚卸
 - シーズ A 相当課題公募による早期シーズの発掘
- ② 学外異分野シーズ発掘戦略の構築
 - 先端医療開発コンソーシアム(C-DAM)を通じた橋渡し研究の啓蒙活動
 - シーズ A 相当課題公募による早期シーズの発掘
- ③ シーズの評価と選考システムの実施
 - 選考したシーズの進捗管理と評価、伴走支援の実施
(TPP 策定、知財取得、予算管理、スケジュール策定、ステージアップの検討等)

II. JST COI-NEXT 拠点事業の推進

- ① 健康医療イノベーションエコシステムの様々な健康課題への適用
 - 新たな支援人材(コミュニティケアアテンダント)の育成
 - イノベティブな技術の構築(PHR の利活用、低侵襲診断技術の社会実装、リハビリロボット等)

- ② 新たな支援体制の整備
 - ニーズと支援のマッチング強化
 - シーズ A 相当課題公募による早期シーズの発掘
- ③ 有用性検証と社会実装
 - 健康医療イノベーションエコシステムの「地域課題」での検証と実装

III.地域中核・特色ある研究大学整備事業の推進

- ① 精神・神経疾患における知が混ざり合い、知が生まれる次世代ラボラトリーの建築
(提案大学:藤田医科大学、連携大学:浜松医科大学、参画機関:生理学研究所)
 - 今回の施設整備事業の支援を基に、幹細胞・オルガノイドラボ、メディシナル・プロセスケミストリーラボ、データサイエンスラボ、バイオインフォマティクスラボ、オープンラボを整備
- ② 糖鎖生命コア研究拠点
(提案大学:岐阜大学、参画機関:藤田医科大学、三重大学、岐阜薬科大学)

IV.スタートアップ支援と環境整備

- ① フジタ TT インパクトファンド 1号運営支援
 - 出資先候補の情報収集、リストアップ
 - 出資先候補の技術評価、経営陣のキャリア調査
 - 投資契約書の作成と締結
 - ハンズオン支援(研究開発、経営等)
- ② 年間 2 件のベンチャー起業
 - 起業相談窓口を通じた起業相談
 - 他大学、事業会社とのジョイントベンチャー検討

V.各分野(センター)における新たな研究の推進

- ① ヘルスデータアーキテクチャーセンター
 - 医療情報の標準化のためのデータモデリングを実施し、安全・安心に医療情報の利活用が実施可能な基盤の整備に関する研究開発を推進
 - HER、PHR、臨床教育・研究に関するサービスのモデリングおよび現存するサービスとの安全・安心な連携機能の研究・開発
 - ジョイントベンチャーの設立
- ② 国際再生医療センター
 - 臍島移植の実施(臍島分離・移植の体制整備は 2022 年度に完了)
 - 作成した CAR-T 細胞を用いた、培養がん細胞株に対する細胞障害活性、マウスへの移植腫瘍に対する抗腫瘍活性の解明
- ③ 精神・神経病態解明センター
 - 神経の再生医療に関する新たな研究部門(幹細胞・オルガノイドラボ)を大学 4 号館 2 階に新たに整備

- 藤田医科大学東京 先端医療研究センターとのコラボレーション研究の準備を開始
- 2023 年 11 月に第 2 回国際シンポジウムを開催
「The 2nd Fujita International Symposium on Brain Science」
- ④ がん医療研究センター
 - 院内がんゲノムプロジェクト第 2 期(1,000 症例のリキッドバイオプシー)の実施
- ⑤ 感染症研究センター
 - 研究部門を率いる PI(主任研究者)のリクルートと研究部門(AMR 創薬)の開設
- ⑥ オープンファシリティセンター
 - 近隣の大学・研究所との相互支援関係の強化
 - 研究環境整備の推進(デジタルイメージングシステム、多光子励起顕微鏡システム、質量分析用ナノリキッドクロマトグラフィー等)
- ⑦ 産官学連携推進センター
 - 11 号館インキュベーションセンターの本格稼働による企業誘致と共同研究の推進
 - 地域包括ケアに根差した連携病理による診断事業のブランディング
 - C-DAM からのシーズの発掘、知財戦略の立案、人材育成の推進

医療・福祉

1 藤田医科大学病院（第1教育病院）

【医療・福祉】

I.常に安全で質の高い先進的な医療を提供

- ① 当院独自のがんゲノム医療の実践
 - 先進的ながん遺伝子検査方法(Liquid biopsy)の導入
 - がんゲノム医療拠点病院指定のための取り組み(院内ゲノム診療体制の拡充)
- ② 最先端医療の充実、低侵襲手術の充実
 - 高難度、ロボット支援手術の拡充(新たな領域におけるロボット支援手術の積極的導入)
 - 国内第一位の症例数維持のための患者リクルート体制の強化
 - プレバイオティクス、プロバイオティクス、ポストバイオティクスの研究開発の推進
- ③ セラノスティクスセンター計画の推進
 - セラノスティクスセンター設置準備

II.スマートホスピタル化実現による診療の効率化と業務改善

- ① 搬送用ロボット導入による医療者負担軽減や業務効率化
 - 検体・薬剤搬送用ロボットのサービスイン
- ② 人工知能(AI)を用いた新たながん診断システムの確立
 - 藤田画像・遺伝子統合診断システムの運用
- ③ 業務システム・医療データのスマート化
 - 問診システム、お薬手帳のOCR機能の有効活用
 - ICU系の生体データを用いた新規診断法開発
 - 第1、第2、第3、第4教育病院間のWebカンファレンスシステムの充実とNCD・J-OSLERへのデータ共有化
 - 医療情報の2次利用連携プラットフォームの開発
 - 尾三会での後方連携のDX化
 - システム化による医療事務業務の効率化推進
- ④ 安全性の高いセキュリティ基盤の構築
 - 新たなセキュリティポリシーに基づくセキュアなネットワークの本格運用開始

【社会貢献】

I.基幹災害拠点病院としての責務を果たすべく南海トラフ地震に備えた医療提供体制の構築

- ① 基幹災害拠点病院機能の充実
 - 事業継続規程(BCP)と事業継続要領(大地震)の継続的な見直し・改善

- ② 重篤救急患者の救命医療をおこなうための高度な診療体制整備
 - ハイブリッド ER 建設検討
 - ドクターヘリ運航開始に向けた施設整備、運航手順の策定
 - 地域の発達障害児、医療的ケア児、外国籍児の包括的支援プロジェクト

【研究】

I. 基礎研究・臨床研究の推進

- ① リサーチマインドの育成と臨床研究の推進
 - 共同研究推進体制の醸成と新たな研究領域創出の開始
 - 他施設共同研究プロジェクト・産学連携プロジェクトの推進
 - CPC を活用した細胞治療・骨髄移植の計画
- ② テクノロジー活用の活動支援システム・機器開発
 - 機器開発継続、スマートホスピタル構想での実証
 - 臨床研究医プログラムの開始
- ③ グローバルでの競争を意識した次世代研究の推進
 - 実現可能性についての予備的検討

【教育】

I. 働き甲斐のある職場環境づくり

- ① ホスピタリティ・接遇の向上
 - 接遇教育の継続、定期的な接遇・身だしなみ評価の継続
 - 他職種間による他者評価を取り入れた接遇力の向上
 - 多職種合同挨拶運動による良質な接遇の実践
- ② ワークライフバランスとジェンダーギャップの改善
 - 過重労働の防止、休暇の取りやすい勤務環境の構築
 - 男性職員の育児休暇取得や育児短時間勤務取得の推奨
- ③ 多職種タスクシフティングによる業務効率化・業務改善の推進
 - 煩雑でヒューマンエラーを生む業務の自動化の提案と実践
 - 多職種共同による働き方改革への取り組み
 - 看護師特定区分研修修了者・FNP(診療看護師)による役割・業務拡大
- ④ 高い臨床力を持ち、“藤田スピリット”を継承する医療人の育成
 - 技術習得による診療スキル向上への取り組みの継続
 - 次世代リーダー育成に向けたマネジメントスキル向上への取り組みの継続
 - 次世代リーダーの米国短期研修派遣(TJU 等)
 - 看護師特定行為区分研修修了者の多勢輩出のためのカリキュラム再編

【経営】

I.病院経営のための財務基盤の確立

- ① 手術件数の継続的増加
 - デイサージャリーセンターを含む有効な手術室活用
(手術件数 14,100 件達成、ロボット手術 900 件達成)
- ② 予算達成に向けた各種取り組みの実践
 - 多職種連携による効率的なベッドコントロール運用体制の構築
 - 診療科の適正な病床配置および病床機能再編による新たな病床運用体制の稼働
(病床稼働率 97%以上の維持)
 - 前方連携強化による紹介患者数の確保
 - 後方連携・退院支援(MSW 機能)強化による平均在院日数短縮への取り組み

2 藤田医科大学 ばんたね病院 (第2教育病院)

【医療・福祉】

I.病院機能整備の拡充と円滑な病院運営

- ① 新A棟の竣工(2023年8月)
- ② 手術件数増への取り組み
 - 手術室増室後の効率的な運用の実行(手術枠会議の設立)
 - FNP教育と麻酔科医の増員
 - ロボット支援手術導入(外科・婦人科・泌尿器科)
 - 薬剤師の手術室常駐(1名)
 - ME管理室機器管理介入開始(麻酔器、手術医療機器)
 - 術前外来看護師の増員(4→6名)
- ③ 機能整備Ⅱ期(C棟)、Ⅲ期(E棟)計画の立案
- ④ 患者視点でのホスピタリティの向上
 - ホスピタリティ向上計画の実践
- ⑤ 食事の安全かつ効率的な提供システム(ニュークックチル)へのスムーズな移行
 - 移行に向けた計画立案

II.連携施設の拡大と信頼関係の強化

- ① 透析患者獲得
 - 年間透析件数 3,000 件
 - 血液浄化センタースタッフの継続教育(医師、ME、看護師)

- ② 紹介患者数の増加
 - 医療機関訪問数増加(50 件/月、600 件/年)
 - 医師同行訪問の定着
 - 医療機関訪問数増加(40 件/月、480 件/年)
 - 紹介患者数の増加(1,100 件/月以上、13,400 件/年以上)

【社会貢献】

I. 地域や社会のニーズに応える体制の構築

- ① 救急機能の体制充実
 - 救急車受け入れ台数の維持(5,000 件/年)
 - 救急搬送件数増加に向けた受け入れ態勢の継続
 - 救急紹介 50 件/月、年間 600 件、入院割合 70%
 - ウォークイン患者件数増加に向けた医療体制強化
- ② 拠点間連携を含む災害対策の確立
 - 大規模災害に備えた BCP の実践、訓練実施

【教育】

I. 働きがいのある職場環境の改善

- ① “藤田らしい”接遇の向上
 - 接遇教育、研修の実践
 - 挨拶運動の継続
- ② ワークライフバランスの改善
 - 多職種連携強化による時間外労働の軽減
 - スマートホスピタル導入による業務効率化
 - 認定看護師、FNP の効率的業務拡大(麻酔・救急)
- ③ 職場満足度の向上
 - 職場満足度調査データに基づいた対策
 - 育児休暇、育児時短勤務の推奨、保育施設設置の検討

II. 病院経営教育

- ① 経営改善のため、各現場からボトムアップ提案、職員教育、研修実践
 - 経営分析資料作成の職員教育、研修実行

【経営】

I. 病院経営における財務基盤の持続的確立

- ① 地域がん診療連携拠点病院指定要件の達成に向けて件数確保
 - 院内がん登録数 500 件/年以上

- 悪性腫瘍手術件数 400 件/年以上
 - ・がん薬物療法延患者数 1,000 人/年以上
 - ・緩和ケアチーム加算の届け出
- ② 2024 年度の機能評価係数Ⅱアップへの取り組み
 - 効率性係数、複雑性係数増加計画の継続的な実施(在院日数短縮、回転数の増加、重症患者受入)
 - 患者利便性向上のための院内処方率の増加(50%)
- ③ 予算達成に向けた各種取り組みの実践
 - 病床稼働率 95%以上
 - 手術件数 4,400 件

3 藤田医科大学 七栗記念病院 (第 3 教育病院)

【医療・福祉】

I.総合的がん治療の実施、緩和におけるテーラーメイド治療の確立

- 一般病棟での胃ろう造設や中心静脈ポート造設、胸水・腹水濃縮濾過再静注法の積極的な実施による入院単価向上
- 薬剤・検査・栄養治療について適正さの確認
- 腸内細菌叢に関する介入研究

II.リハビリテーション医療の特色の強化

- リハビリテーション研究プロジェクトの定期的進捗確認と実行
- 臨床・研究データの定期的な学会報告
- 新たなりハビリテーションプロジェクトの創設・研究開始
- 多職種で効率性の高いリハビリテーション訓練の実行
- トヨタ共同開発中の新たなりハビリテーション支援システムの導入

III.内科診療の維持と認知症対応

- 内科体制の維持と、内科的合併症の急性期対応への協力
- 関係機関と連携による認知症地域診療ネットワークの構築

IV.歯科口腔環境の維持向上と地域ニーズの提供

- より早期に歯科介入できるよう院内システムを検討
- 摂食嚥下障害を含め、地域ニーズに従った歯科外来での医療を提供

【社会貢献】

I.地域連携強化と地域貢献

- ① 行政との協定に基づく教育を含む地域啓発活動
 - 包括連携協定を津市と継続し、三重県との連携を開始
- ② 臨床各科・部と入退院支援課・訪問事業部との連携による在宅医療、急性期病院との共同活動
 - 訪問医との連携強化、緩和ケア入院可能範囲の拡大
 - 三重中央医療センター等に緩和ケア外来創設を打診
 - リハビリテーション科の連携地域拡大
- ③ 災害時の体制整備と地域連携の明確化
 - 災害時訓練の継続的な実施、評価、広域災害時の体制整備
 - 地域連携の ACP、連携システム、がん患者支援連携体制の実践
 - 七栗どこでもまちかど保健室の開催頻度増加
 - みなし指定による居宅療養管理指導(訪問栄養指導)の開始
 - 津市キャリア教育事業を開始
 - 脳ドックを返礼品としたふるさと納税の運用開始
- ④ 地域未来ビジョン参画
 - 地域未来ビジョンに訪問事業部と地域包括支援センターが連動参画

【教育】

I.働き方改革と対策

- ① 週休二日制導入による影響と対策
 - 週休二日制の結果検討を行い、効率改善を推進
 - 各部署の所属長による超過勤務の適正管理
- ② タスクシフト/タスクシェアリング
 - 臨床検査技師による外来患者の採血・末梢輸液実施体制整備
 - フォーミュラリーの実施と費用対効果の検証
 - 読影補助体制の評価(PDCA サイクル)

II.教職員育成(学生・職員の教育体制)

- ① やさしい医療の提供を実現する医療人の育成
 - 接遇教育の継続と定期的評価、多職種合同挨拶運動の見直し
- ② 専門性が発揮できる働きがいのある職場づくり
 - プロジェクト、ワーキング活動の継続
 - 退院後リハビリ患者・家族会の実施
- ③ 質向上に向けた人材育成と研究の促進
 - 特定、認定、学会認定の医療従事者の育成と活用

【経営】

I.戦略企画

- 年間一日平均入院患者数 207 名(稼働率 95.0%)、予算達成に向けた各種取り組みの実践
- 建て替え・移転等に関するあらゆる可能性の院内検討
- 北勢地域等転院数の少ない病院との連携拡大
- 病床数増減(1 階病棟増、2 階病棟増、4 階病棟減)効果の見極め
- デイケアセンターの黒字化維持

II.訪問事業部黒字転換計画

- 訪問事業部の黒字化
- 訪問看護事業所 3 箇所目設置に向けた具体的スケジュールの立案
- 訪問リハビリテーション事業所の規模に合わせ事務員を増員

【その他】

I.広報活動計画

- 急性期病院・後方支援病院への継続展開と県外、全国に向けての検討
- 地域(訪問・地域包括・在介分野等)への継続展開と未関係地域施設への広報活動開始
- 医療・行政従事者のリクルートも踏まえた継続活動
- 職員リクルートを目的とした学生向きリハビリテーションセミナーの検討
- ホームページの集中的見直し

II.患者・教職員による取り組み

- 患者満足度向上に向け、現状把握および環境全体の改善計画を検討
- 職場懇談会の活性化とエンゲージメント調査で得られた意見への対応による職員満足度向上

4 藤田医科大学 岡崎医療センター (第 4 教育病院)

【医療・福祉】

I.質の高い先進的な医療を提供

① 最先端医療の充実、低侵襲医療の充実

- ロボット支援手術の術式拡大
 - ・ ロボット支援手術(hinotori)の術式拡大
 - ・耳鼻咽喉科にてロボット支援手術開始

- 整形外科ロボット支援手術開始
 - ・膝・股関節ロボット手術(ROSA)運用開始
- ② 医師が集まる診療・手術の研究拠点整備
 - 心臓血管外科の手術拡充
 - 他施設および企業との共同研究の推進
 - 低侵襲手術法の開発と普及
 - 前向き多施設共同研究による評価体制の確立
- ③ 麻酔科医の確保
 - 麻酔科医の増員
 - ・リクルートの強化

【社会貢献】

I. 災害拠点病院として地域医療機関との災害連携による医療提供体制の構築

- ① 災害拠点病院機能の充実
 - 事業継続計画書(BCP)の見直し・改善
 - 地域と連携した広域災害訓練の実施
- ② DMAT 指定医療機関に向けて(2023 年 4 月指定予定)
 - DMAT 隊編成および市内地域訓練への積極的参加

【教育】

I. 職場環境づくり

- ① 働き方改革の推進構築
 - 健康的に働ける環境の整備
 - 専門性が発揮できる働きがいのある体制整備
- ② ワークライフバランスの構築
 - 有給休暇を取得しやすい職場環境を整備
 - スマートホスピタル導入による業務効率化
- ③ 接遇の向上
 - 接遇教育、研修の実施、身だしなみ評価
- ④ 職場満足度の向上
 - 満足度調査データにより改善提案作成
 - ・改善を随時行い、患者満足度を向上

【経営】

I. 病院経営、財務基盤の確立

- ① DPC 病院に向けて(DPC 準備病院 2022 年 4 月~2024 年 3 月)

- 機能評価係数Ⅱの整備
- ② 救急車受け入れ増に向けて 7,500 台/年
 - ER で全症例応需後のトリアージの徹底強化
 - 消防署(救急隊)との連携強化
- ③ 医療連携施設拡大強化
 - 紹介患者数の増加 1,250 件/月(前方連携病院の強化)
 - 医療機関訪問数拡大 70 件/月(西三河医療圏へ拡大訪問実施、後方連携病院強化)
 - 医師同行訪問の拡大 30 件/月(医師同行の検証を行い、有効性を数値化)
- ④ 予算達成に向けた各種取り組みの実践
 - 病床稼働率 95%以上(クリニカルパスの疾患別拡大)
 - 手術件数 5,397 件(手術室の効率的な運用体制強化)

5 地域包括ケア中核センター

教育・研究事業

あらゆる地域の超高齢化に対応できる地域包括ケアと地域共生社会を構築

あらゆる地域で現状を引き起こす真の要因を分析し、ミクロ・マクロデータと医療介護連携施策の視座から、産官学民の多職種連携における実践と教育の質の向上に資する計画を図る。

- 自治体の介護保険データから現状把握、課題検討
- 産官学連携により在宅医療・介護の人的課題の検討
- まちかど保健室(拠点・出張型)等にて住民の生活課題の把握
- 豊明市、日進市、東郷町、幸田町における新総合支援事業の実施を強化

訪問看護事業

健康寿命の延伸と療養支援を強化

高度な在宅看護を実践できる看護師、療法士の教育計画を整備し、地域で暮らし続けることができるサービス提供体制の質の向上をめざす。

- 重症例データの分析と適正な看護計画の検討
- 高度な看護ケアの実践に向けた教育計画の整備
- 電子カルテ ICT 活用方法を確立し事業所間の連携を強化
- BCP(事業継続計画)策定の完了と訓練の実施

居宅介護支援事業

自分らしい暮らしを継続支援するためのケアマネジメントの質を向上

介護保険サービスだけに頼るのではなく、様々なサービスや地域資源に目を向け、個別のニーズに寄り添う支援をめざす。

- BCP(事業継続計画)に沿った演習、訓練の実施
- 全拠点事業所協働型のケアマネジメント研修を実施
- 高齢者虐待防止指針の策定と研修の実施
- 適正な事業運営に向けた人員確保

地域包括支援事業および豊明東郷医療介護サポート事業

自治体の総合事業を始め、各種事業へ協力し、ふつうに暮らせるしあわせを支援

重層的支援整備体制事業について、主体的に協力して、地域課題を共有する。

- 坂崎学区、幸田学区における介護予防教室・サロン等の主体的実施
- 多職種合同ケアカンファレンスを通じて地域の専門職への他職種技術移転の強化とアセスメント力の向上を図る
- 重層的支援体制整備事業を支える多様な機関と課題を共有し解決策を検討

6 藤田医科大学東京 先端医療研究センター

【目的】

日本の玄関口、羽田に日本の先端医療の拠点を創り、世界に発信する

- ① 再生医療、遺伝子診断などの新しい分野の医療技術を研究開発
- ② 国内外の患者に対して日本発の最先端医療を提供
- ③ 精密健診と科学的な生活指導を実施(活動長寿プログラム)

【社会貢献】

I.新しい医療の開発を通じて、全ての人類の健康の維持に貢献

- ① 先端医療に積極的に取り組み、エビデンスを蓄積
- ② 日本発の医療技術を世界に提供

II.日本の医療産業の活性化に貢献

- ① 最新の機器を備えた羽田空港隣接地における日本製医療機器のショールーム
- ② 羽田対岸の川崎市殿町に集積する慶應義塾大学、実験動物中央研究所、ライフサイエンス関連研究開発企業等と提携・協力し、再生医療・遺伝子医療等の社会実装へ取り組み

- ③ 多様化するニーズに応えるべく、現代医療のいっそうの多様化、質の向上に取り組み、次世代医療の常識を創造

III.日本の医療制度改革に貢献

- ① 保険診療に収まらない高度医療を国民が受診できる仕組みを構築する
- ② 世界の先端医療を国内でも受けられるようにする

【医療】

I.医療

- ① エビデンスに基づいた革新的かつ高度な医療の実施
- ② 自由診療、先端医療など幅広い医療を提案し、社会の多様なニーズへ応答
 - 再生医療、がんゲノム診断
 - 高度生殖医療
 - 一人ひとりに最善のソリューションを提供

II.健診

- ① 会員制健診センター
- ② 最新鋭の医療機器を用いた精密健診・検診の実施
 - 全身 PET-CT、最新の MRI/CT
 - AI 内視鏡 等

III.活動長寿

- ① 健康な方、病気や身体に不自由を抱えている方、全ての人が幸福な生活を送るための「活動長寿」
- ② 運動、栄養・食、生活リズムを整える
 - ロボット・最新機器を用いた先端リハビリテーション
 - 最新の栄養・ダイニングサポート

【研究】

I.臨床再生医学講座および共同研究講座の設置

II.新規治療法の開発や創薬など医療の進歩につながる研究への取り組み

III.再生医療の普及を目指した Reverse Translational Research を実施

【教育】

I.再生医療および遺伝子治療領域の博士号取得を目指す医師、胚培養士など医療専門職の育成

II.社会人大学院生による Regulatory Science の即戦力となる人材の育成

【経営】

I.2023年10月開業の実現

II.経営の早期安定化への取り組み

- ① 藤田医科大学東京 先端医療研究センター(FMIC Tokyo)のブランド構築
- ② 国内外への情報発信
- ③ 健診センターの会員獲得
- ④ 多様な診療メニューの構築

経営

経営管理体制の強化・推進

I.事務部門体制の見直し

- 経営企画機能の強化
- 事務部門組織の再編検討

II.収益管理力の強化

- 経営改善委員会活動の充実
- 中長期経営計画運用方法の定着化
- 関連会社の再編
- 余剰資金運用方法の見直し

III.施設・設備投資マネジメントの強化

- 中長期施設整備計画の推進
- 大型設備投資の計画的管理・推進
- 施設・インフラ保全活動の着実な推進

IV.原価低減・調達改善の取り組み

- 学内各部と連携した価格交渉の強化
- 災害時を視野に入れた在庫の適正化
- 物流改善によるリードタイムの短縮

V.ITの高度化推進

- 今後のDXを支えるインフラの整備
- 働き方改革を支える業務システムの更新(大学システムの更新検討)
- 病院のビッグデータを活用できる環境の構築

VI.広報機能の充実とブランド力の強化

- 企画提案力、技術力の習得による発信力向上
- 外部ネットワークの拡充による機能強化
- 新たなコンテンツの開発と定着
- 教職員への積極的な情報発信による啓発活動の強化

VII.フジタイノベーションキャピタルを核としたJV・スタートアップ事業の推進

ガバナンス・内部統制環境の見直し

I.私立学校法改正への対応

- 執行と監視・監督の機能分離、相互牽制体制の検討

II.ガバナンス体制の強化

- ガバナンス基本方針、行動指針の拡充
- ガバナンスコード不適合項目への対応

- 外部通報窓口との協働のあり方検討

より魅力ある人事・教育制度の構築

I. ワークライフバランスと生産性アップにつながる働き方改革の推進

- 週休二日制の浸透
- 勤務管理システムの改善検討
- 医師の労働時間短縮計画の実施

II. “働きやすさ”と“働きがい”を高める人事制度の充実

- 等級・評価制度の見直し
- 全学エンゲージメント調査の実施
- オリジナリティ溢れる福利厚生制度の検討

III. 組織運営の質向上のための教育・研修制度の強化

- 事務職に重点を置いた管理職研修の実施

大規模災害に備えた取り組み

I. 災害時対応可能な大型ドクターヘリの導入

- 事前準備の実施、年度内運航の開始
- 収支計画、施設整備計画の実施および管理
- フライトドクター、フライトナースの養成

II. 他大学病院との災害時連携の推進

- 三重大学・浜松医科大学との3大学間連携の強化(3大学合同実動訓練の企画・実施)
- 連携大学拡充の検討

III. 企業や自治体との連携による災害対策の強化

- 災害時エネルギー供給機能強化の検討
- エネルギー運用最適化の検討
- 災害備蓄体制の強化

IV. 学園全体の防災力の強化

- インフラ設備の防災対策強化
- 学園防災計画の策定
- 教職員防災教育計画の実施(防災士研修受講 100名/年)
- 全校地合同防災訓練の企画・実施

2023年度 学校法人藤田学園予算

2023年3月29日に開催された評議員会および理事会において、2023年度学校法人藤田学園の予算を承認した。

2023年度予算は、2022年度に実施した人事制度改革の影響や光熱費、施設修繕費、減価償却費等の増加、2023年秋に開設予定の藤田医科大学東京 先端医療研究センターの稼働を見込んだ予算を策定した。

企業会計の損益計算書にあたる事業活動収支予算書における2023年度の経常収支予算は、教育活動収入116,426百万円、教育活動支出111,672百万円、教育活動収支差額4,754百万円となり、経常収支差額4,754百万円となった。

特別収支予算は、施設関係補助金等の特別収入272百万円、資産処分差額等の特別支出130百万円、特別収支差額141百万円となった。

結果、企業会計で当期純利益に相当する基本金組入前当年度収支差額は4,895百万円となり、学校法人会計特有である基本金16,186百万円を組入れた後の当年度収支差額は△11,290百万円の予算編成となった。

2023年度に計画している主な設備投資

- ・ 藤田医科大学東京 先端医療研究センター整備工事
- ・ 藤田医科大学病院 セラノスティクスセンター整備工事
- ・ 藤田医科大学ばんだね病院 新A棟建設工事
- ・ 藤田医科大学 大学11号館整備工事
- ・ 藤田医科大学 井水処理施設整備工事
- ・ レストピアふじた改修工事

【事業活動収支予算書】 (単位:百万円)

科目		予算額
教育活動収支	事業活動収入の部	
	学生生徒等納付金	7,429
	手数料	306
	寄付金	701
	経常費等補助金	3,425
	附随事業収入	1,831
	医療収入	101,406
	雑収入	1,327
	教育活動収入計	116,426
	事業活動支出の部	
	人件費	45,425
	教育研究経費	17,359
	医療経費	43,278
	管理経費	5,488
徴収不能額等	123	
教育活動支出計	111,672	
教育活動収支差額	4,754	
教育活動外収支	事業活動収入の部	
	受取利息・配当金	31
	教育活動外収入計	31
	事業活動支出の部	
	借入金等利息	31
教育活動外支出計	31	
教育活動外収支差額	0	
経常収支差額	4,754	
特別収支	事業活動収入の部	
	資産売却差額	1
	その他の特別収入	271
	特別収入計	272
	事業活動支出の部	
	資産処分差額	130
	その他の特別支出	0
特別支出計	130	
特別収支差額	141	
基本金組入前当年度収支差額	4,895	
基本金組入額合計	△16,186	
当年度収支差額	△11,290	
前年度繰越収支差額	△86,385	
翌年度繰越収支差額	△97,675	

(参考)

事業活動収入計	116,728
事業活動支出計	111,833

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示



〈表紙のデザイン〉

一つ一つ違うものが組み合わせると全体として一つの幾何学模様デザインになります。

今の時代に大切な「多様性」を表すモチーフとしてこのデザインを採用いたしました。



学校法人 藤田学園

学校法人藤田学園

〒470-1192

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98

TEL:(0562)-93-2800(代)

<https://academy.fujita-hu.ac.jp/>

